

七条中学校だより

No. 10

～わくわく そして どきどき～

平成 27 年 3 月 20 日
京都市立七条中学校
校長 西村 彰高

1年間、有難うございました

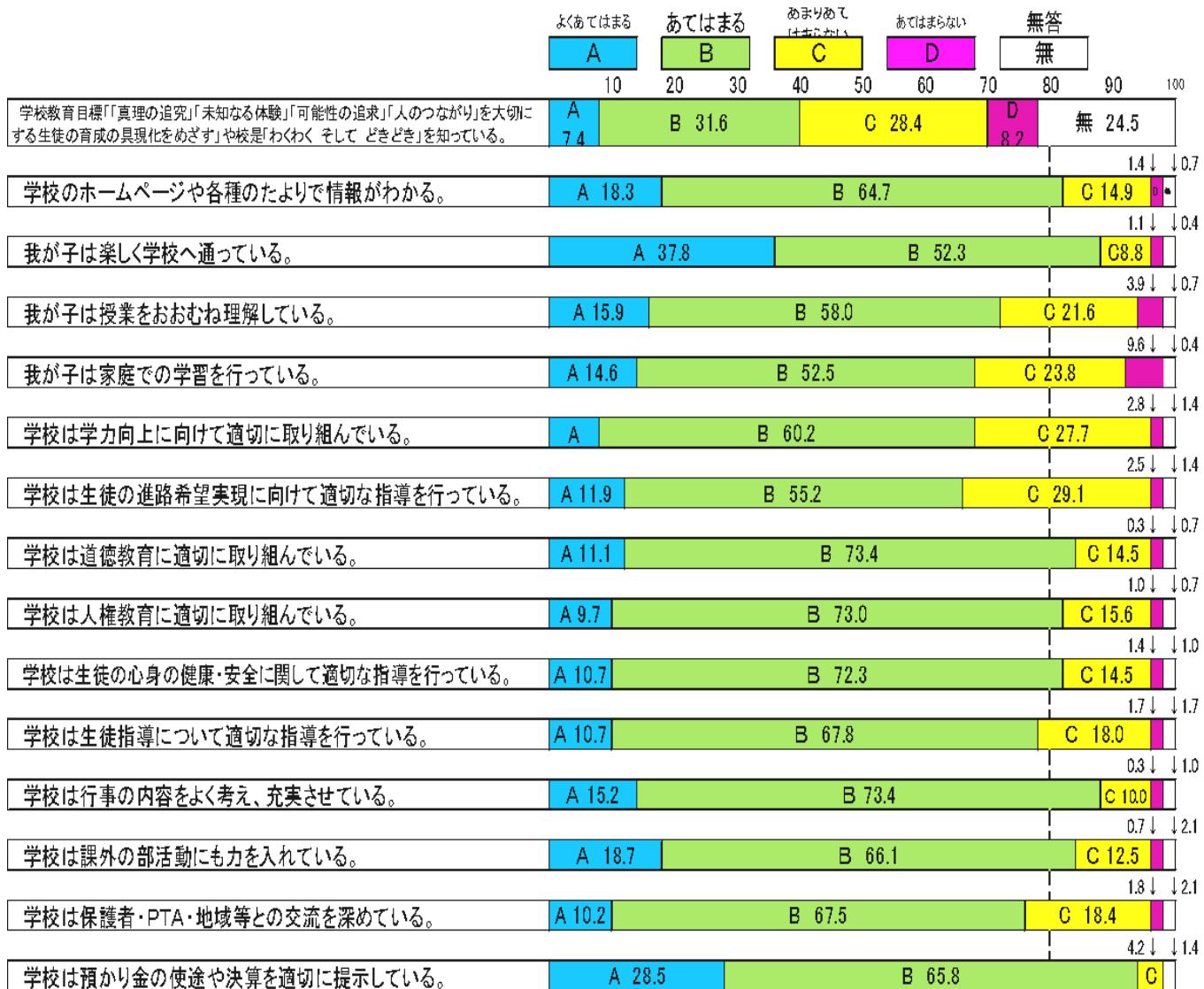
本日で、この1年間の学習が終了します。生徒会を中心として、生徒自身のより良い学校にしようという熱意が落ち着いた雰囲気を創り、「誇りのもてる学校」へ邁進しています。保護者の皆様をはじめ、地域の皆様のご理解とご協力、ご支援のおかげで、そのような学校へ変わってきたことを大変嬉しく思います。感謝申し上げます。

来年度も、教職員一同、さらにより良い学校づくりに力を注いでいきますので、これからも引き続き、ご理解とご協力を賜りますよう、宜しくお願ひいたします。



後期学校評価から

3月上旬に、保護者の皆様にはお忙しい中を「後期学校評価」にお答えいただきまして有難うございました。集計の結果をご報告いたします。評価いただいた結果を真摯に受け止めて、改善に向けた取組を4月から進めてまいります。



卒業証書授与式から

3月13日（金）午前9時30分より「第58回 卒業証書授与式」を体育館でおこないました。130名の卒業生が来賓、在校生、保護者の方々に見守られて、卒業しました。

証書をもらう卒業生の顔はみんな凜々しくて、証書を渡している私はとても嬉しく思いました。送辞、答辞の内容も中学生らしい素敵な言葉が詰まっていました。また、「旅立ちの日に」や最後に保護者の方々に向けた感謝の合唱「桜散る頃～僕達のLast Song～」は、体育館に素敵なかっこいい響かせていました。素晴らしい合唱でした。



三好PTA会長様からは、「周りの人の噂や評価に頼ることなく、自分の目や耳で確かめることが大切です」という祝辞をいただきました。改めて、3年生の皆さん、卒業おめでとう！3年間のすてきな思い出を有難う。これから社会を担う若者に成長されますことを願っています。式辞の中で2つ大切にしてほしいことをお話しましたので、ここに紹介します。

皆さんは本日をもって、9年間の義務教育を修了することとなります。4月からは、自分の夢の実現に向けて、自分で決めたそれぞれの道を歩いていくことになります。その道のりはいつも平坦で歩きやすく、心地よい時ばかりではないでしょう。様々な困難に遭遇しながら歩かなければならぬことも少なくないと思います。時は自分の誇りや自信を失うことがあるかもしれません。希望の光が見えないこともあるかもしれません。

そんな時にでも、大切にしてほしいことを2つお話しします。

一つ目は、私が2月末に聞いた興味深い話の中にはあります。話のテーマは「サル化する人間社会」、話し手は京都大学総長をされている山極寿一教授でした。山極先生はゴリラの研究で世界的に有名な方です。

サルとゴリラの社会の違いからお話をされました。ゴリラの社会では、群れの仲間の中で序列を作らないという特徴があるのだそうです。けんかをしても、誰かが勝って誰かが負けるという状態になりません。じっと見つめ合って和解します。ゴリラの社会には勝ち負けという概念がありません。また、彼らのあいさつは互いに顔と顔を近づけて見つめ合うのです。そして、食べ物は力の強い者が、子どもやお年寄りに分け与えるのです。

サルの社会では、ゴリラと正反対で、まさに勝ち負けの世界を作り出します。サル社会は純然たる序列社会で、最も力の強いサルを頂点に上下関係を構築しています。弱い者はいつまでも弱く、強い者は常に強い。諂いが起これば、大勢が強いて加勢して弱い者をやっつけてしまします。弱い立場の者が食べ物をもっているところに強い者がやってくると、その食べ物から手を離し、強い者に譲るということになります。

人間社会はどうぢらに近いでしょうか。

現代社会はどうぢらの部分も備えているといえるでしょう。ゴリラのように勝ち負けをつけない感性は、人間の様々な部分で見受けられますし、サルのように序列を好むシステムもまた、現代社会には存在しています。ただ、人間社会が加速的にサル社会化しているように感じられると言われています。

実は、ゴリラは人間の仲間、ヒト科の仲間なのです。山極先生は「人間とは何かということを探りたい」という思いから、ゴリラの研究をされたようです。ゴリラの生活をしっかりと観察していると初期の人類の姿が推測されるということです。

私たち人間は、「家族」と「共同体」の二つの集団に所属して暮らしています。家族においては「子どものためなら」「親のためなら」と多くのことを犠牲にし、見返りも期待せずに奉仕します。家族だからと、えこひいきをするのを喜びとするものです。一方、共同体では何かをしてあげれば相手からもしてもらえます。何かをしてもらったら、お返しをしなくてはなりません。それは互酬的な関係で、えこひいきはありません。

人間以外の動物は家族と共同体を両立できませんが、私たち人間は家族を基本としつつも、いくつかの家族とともに共同体、仲間をつくり、協力して子どもを守り、食べ物を分かち合って、進化してきました。

ところが、現代では、これまで共に食事をしていた家族の形が、個食といわれるようにならざるを得るようになっており、インターネットやケータイ電話などの通信革命で相手と対面しなくとも友達になることが普通になってきています。サルの社会では個体の欲求が優先されます。山極先生は現代の人間社会を憂いて「サル化する人間社会」という題をつけられたのです。

つまり、「ヒト」が元来遺伝的にもっている特性である「家族のつながり」、「共同体や仲間とのつながり」、「顔と顔を合わせたあいさつ」、「諂いがあつても仲裁者によって勝ち負けを作らない」ということを大切にしてほしいと思うのです。

二つ目は、「夢」です。皆さんはいつの日かいずれかの職業に就き、社会の一員としての役割を果たす時がくるでしょう。今でも「こんな職業に就きたい」「こんな仕事がしたい」という夢をもっている人が少なくないと思います。抱いた夢を自分の強い意志が「志」に変えるわけですが、皆さんが抱いている夢に付け加えてもらいたいものがあります。それは「飾り言葉」です。

例えば、「自分は看護師になりたい」「自分は自動車整備士になりたい」という夢をもっていたとします。飾り言葉がついた夢とは、「どんな」という言葉を付け加えて、例えば「自分は患者さんの思いに寄り添うことができ、感謝される看護師になりたい」とか、「お客様から安心して任せられると言ってもらえる自動車整備士になりたい」とか、より具体的な姿を表したもので、そうすることで、これから、自分が学ばなければならないことや身に付けなければならないことが見えてきます。

皆さんが歳を重ねるごとに、この「飾り言葉」がだんだん多くなっていくはずです。いくつになっても、飾り言葉がついた夢に向かって歩み続けられる、そんな人であってほしいと願っています。